

おんじゅく

2

昭和54年 2月

第185号

千葉県御宿町役場

歓迎 御宿中学校



かまくらに入って大喜びの生徒たち

楽しかった海と山の子交流会



たちまち「スイスイ」 覚えがいい子どもたち

今年も1月31日から3日間、海と山の子交流会が行われました。参加したのは御宿中学校1年生160名とつきそいの先生、父兄たち。野沢中の子どもたちや野沢温泉村の人たちから大歓迎をうけ、それぞれの胸に楽しい思い出を残して、全員無事に帰ってきました。

見送りの父兄
で大にぎわい

◇…一月三十一日(水)…◇

午前四時三十分、集合場所の公民館広場前には、一年生百十六名と見送りの父兄でにぎやかです。

「運転手さん、バスの中は暖房がさくのですか」心配そうなお母さんたち、十二時間のバスの旅は遠く感じるのかも知れません。

午前五時わが子の旅立ちを見送る父兄を後に、バスは出発しました。

子どもたちは期待に胸をふくらませ元気いっぱい、いつもならまだ暖かい布団にくるまって寝ている時間なのに、どの子も寝ようとしません。車の流れは順調で、千葉、埼玉、群馬とバスは、たいした渋滞もなく進む、碓氷バイパスをぬけると、目の前に、きれいに雪化粧をした、浅間山が見えます。

出迎えの人たち
ちがいったばい

ここは軽井沢、いつもなら白銀に覆われているはずなのに、雪は



ところどころにしか見えません。結局チェーンをつける事なく野沢温泉村に到着しました。

野沢温泉村の中心、かじや駐車場は、出迎える人たちがいっぱい、去年の夏御宿におとずれた野沢の子どもたち、みんな見覚えの顔六か月ぶりの対面です。

盛大な歓迎式が終わり、それぞれ宿舎へ移動しました。

◇…二月一日(木)…◇

午前九時二十分、日影ヶレンデで、スキー教室開講、小雨降るなかを元気にスキー練習を始めました。それぞれ十一名の指導員に、スキーの手ほどきから教えていただきました。

今回特別に同行、野沢温泉村を訪れた岩井町長、岩崎議長も子供たちにまじってのスキー練習、二人とも戦時中スキーを習ったことがあるとのこと、何十年ぶりのスキーを楽しんでいました。

子どもたちが

贈り物の交換

午後三時、向林ジャンプ広場で生徒交流、心をこめた具殻ざいくなどの交換をしました。

野沢中生徒のスキーの試技、ジ

ヤンプ、アルペン・レースなど、とても中学生とは思えない迫力でした。

宿にもどつてのオシルコサービス、オシルコがこんなにうまいものとは、身体が冷えているだけに格段のおいしさでした。

午後七時夕食の後、新田集会所で映画会、全国的に有名な道祖神祭り、樹水林に包まれる上の平スキー場の様子などを、興味深く見ました。

楽しかった

かまくら遊び

映画の後は「かまくら遊び」大人十人がかりで半日以上かけて造つてくれたかまくらに、みんな大喜び、甘酒をもらったり楽しい夜をすごしました。

◇…二月二日(金)…◇

午前九時、第十一・十二・十八リフトを乗りつぎ毛無山(標高一六五〇メートル)に登りました。

あやしいまでに美しい霧水の白樺林、明と暗がおりなす上の平の美観「野沢の良さは、毛無山に登なければわからない」と話してくれた宿のおじさんの言葉どおり、ユートピアの世界でした。

頂上から十キロメートルの特設コースを滑りおりました。上達が早く、スイスイと滑りだす子ともいます。

スキーヤーとして、全国のトップレベルにある金井実行委員長もうなずくほど、上手になった生徒もいました。



さあー、すべるぞ、どの子の顔も明るくニコニコと（バス内で）

午後三時、スキー資料館見学、そしてスキー教室閉講式。

午後七時、お別れ式、双方代表あいさつの後、バスは野沢をあとにしました。

みんなグツスリ

疲れのせいかな、みんなグツスリ
二月三日（土）午前五時、まだ薄暗いなか、バスは御宿に到着しました。

今年の夏は

ありがとう

御宿の人は親切

野沢温泉村の人が話してました。「去年の夏、御宿へ行って感じた、御宿の人はみんな親切で、とてもよくしてくれました。子どもたちもありがたうござい

御宿の話をしていきます。

御宿の子どもたちが来たなら誠意つくそう、私たちはそう考えています」その言葉どおりの、万全の受入態勢で滞りなく交流を終えることができました。

今年の夏、野沢の子どもたちが来たなら、心からの受入れをしてあげたい、そしてこの交流の火は絶えることがあつてはならないと思います。

“もっと滑りたかった”

一年A組 神定 智彦

まことにまつた一月三十一日、海と山の子供の交流で、スキーに行くことになったぼく達はバスに乗る前から気持が野沢温泉村に飛んでいるようだ。

午前五時出発、眠気がふつとんで、みんなバスの中で歌ったりさわいだりしていた。

千葉・幸手・前橋・横川と、一つ一つ、野沢温泉村に近づいて来る。バスがどんどん進むにつれて雪がますますふえてくる。

午後五時、野沢温泉村に着いた。暖かい歓迎のもとにぼく達は民宿に向った。ぼく達は早くすべりた

いあまりに、なかなか眠れなかつた。二月一日八時、スキー場に向かった。

「ようしガンバルン」みんなははりきってゲレンデに向かった。「まずは直滑降です。先生が手本を見せるのでよく見てください。」「えーできるかな。」少し不安だった。

「それでは並んで、合図したらすべってきてください。」

「ガンバレヨッパ」とまわりから

言われておもしろい滑った。一回目はまあなんとか滑れた、二回

回目さつきより自信がついてきたのでいきおいよく滑った「ステーション」ちよつとした油断で、ころんでしまった。まわりから「初ころびだ」と言つてひやかされてしまった。

その後ボーゲンを習つた。

午後からは午前中に習つた直滑降とボーゲンのしあげだ。明日にそなえて細かい所まで教えてもらった。練習も終わり、みんなつかれて早く寝てしまった。明日は上の平から滑るといので、期待と不安の夜だった。

二月二日空は青く澄みきつていた。今日は、上ノ平まで登つて十キロ余りのコースをおりて来るといふことで、ぼく達ははりきつていた。上の平に行くといふ楽しみ

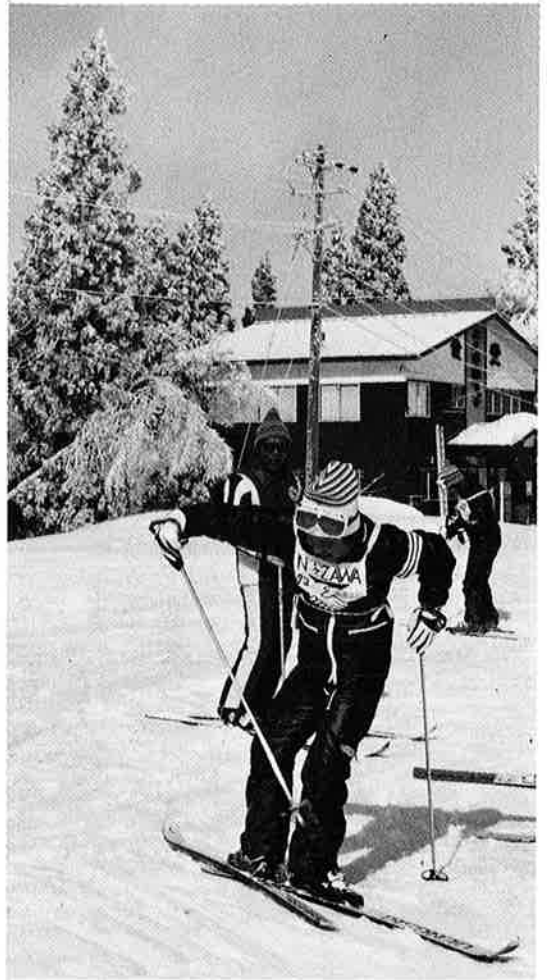
はもう一つあった。それはリフトだ。とどころ立っている白樺の木、上の方に行くにつれてますますきれいなっていく樹氷、風がふくとパラパラと音がする。頂上についてスキートの板を足にはめた、なんとなく気がおちつかない。うまく滑れるだろうか。

「それでは今から滑ります。昨日の事を思い出してください」「シユー」という音とともにすべり出した。ころんでは立ち上がりの連続だ。時間がたつのは早いもので昼食の時間がすぎ、これからの十キロ近くあるコースを滑るのは、本当のことを言うところわかったけど、だんだんたいらになってきた。途中千曲川が見えた。

十キロは長いのだがアツという間に滑りおりました。

「もつと滑りたかったな」みんな同じ事を言っている。

三日間というのは短いもので、アツという間に過ぎてしまった。しかし、この海と山の交流でいろいろの事を学んだ。スキーはもちろん、友情とか民宿での生活などいろいろなることばかりだった。



止めて、だれか止めて、

すてき！青い空、輝く雪

一年B組 増田 美子

バスの窓からOKの旗が、うす

暗がりの冷たい空気にひるがえった。「ブルル……」一月三十一日

午前五時幸保君のあいさつを後に、長野県の野沢温泉村つてどんな所だろうか。そういった希望と興味

深い気持ちを出発した。私達は御宿を出発した。

なんといいでも初めてのスキー人並にすべれるだろうか、という不安。みんなごっちゃになった複雑な気持ちでバスに乗ったわけ

すが……。

十二時間のバス旅行はきついしねむいし、疲れるし、おれ、よっぱらっちゃうオー」

口々に言いたいことは言っていないけれど、みんな夢と希望で張りつめていた。雪国へ行って、大自然の山々を見るのはほとんどの人が初めて、もちろん私もその一人

なのです。バスの窓から、いそがしく映る風景にも目を奪われた。

「あー着いた。なんか降りるのは

ずかしいね。だれもがそう思ったほど野沢の村をあげての歓迎は、喜ばしいと同時にうれしさかった。私達のために……。

午後五時半、もう暗いというのに野沢は明るく暖かいなあーと思

った。夜景も見事だった。でも想像していたより雪が少なかったのが残念。

——そして二日目——

冬の雪国なのに雨が降っていておどろいた。やだ、どいて、止まないよオーノちよつと、ちよつとノあーノ」生まれて初めてやったスキー。一日目のグレンデは本

当に愉快。痛快。すべれるけどみんな止まれなくてあたりかまわず突っこんでしまった。

スキー二日目、とうとうリフトに乗って上ノ平へ登った。樹氷も風景もみんなの笑顔も、いい分なくすばらかった。(これが雪国一番の野沢なのか)ここへ登ってまた新たな野沢を見ることが出来た。大自然の銀世界。

雄大な山々。本当にすばらしい財産だな。それとなくだれかに伝えたくなるような、自分の心の中にしまっておくのがもったいなくて、ふーつとため息が出た。空の青さと輝く雪の白さが見事にマッチしていた。

「ああ野沢。心に新鮮さを与えてくれる、すばらしいところなんだな。つくづくそう感じた。

下へすべっていくまでに、何度ころんで突っこんだか、突っこまれたか。でもすべる時のあの気持ちよさ。カーブを乗りこえられた時の感激。自然に「にこっ」いや「にたり」としてしまふ。あーすべれた。生きて帰れた。自分でも信じられなかったほどだった。

スキーって楽しいスポーツなんだな。三日ただけで、野沢を離れることが、とつてもさみしいなあーと思った。あんなに喜んで私達

を迎えてくれ、親切に暖かくお世話してくれた民宿の人達。

スキーを指導してくれた先生方。そして野沢温泉村、本当に心やさしいよい人ばかりだった。

そして、私達を野沢へ連れていってくれるために働いてくれたみ

なさん。こういう人々に感謝の気持ちをこめ「また来ます」。見えなくなるまで手をふって野沢とごりおしく別れたのです。

「野沢温泉村、ありがと、ばんざい！」いつまでも私の心の想い出になるでしょう。

止まらない！止めて！

一年C組 岩瀬 真理子

「わあっどいてどいてぶつかっちゃう」「止まらない！だれか止めて」。

野沢の向う林ゲレンデでは、あつちこつちでこんな楽しさの混じ

つた声が聞こえてくる。

ついこの間までスキーのそのまも知らない私が、今胸をどきどきさせながら、滑ろうとしている。はきなれない重いスキー靴に初

御宿のみなさんようこそ

野沢中一年 河野 真美

御宿のみなさん、ようこそ野沢へいらっしやいました。

去年の夏、私たちが御宿へ行

った時は、たいへんお世話になりました。私たちも、みなさんが楽しい日をおくれるように、せいいっぱいお世話したいと思っています。

野沢はスキーのさかんなどこ

ろで、学校のクラブ活動にもスキークラブがあり、全国大会で活躍した人もいます。

みなさんにもスキーの楽しさを味わってもらいたいと思います。なかにはスキーは初めての人も多いと思いますが、たくさんスキーにのって、この三日間を楽しく過ごしてください。



ようこそ御宿のみなさん
「海と山の子」スキー
野沢温泉村「海と山の子」交流委

歓迎の横断幕で迎えてくれました

のかと思つたら、それはまちがひだった。いざ滑ろうと思つて下を見たら、すごく傾斜しているように、こわかった。滑っているときスピードが出て止まらなくなった時は、死ぬかとも思つて、すごくあせった。私は、滑る時はすごく楽しいけど、登る時は辛くて泣きたいぐらいだった。足は靴ずれで、大きなまめができて、スキーはすぐ交わつて、転んでばかり。登る時転んだ方が多いようだ。曲がる練習と、止まる練習をして午前のスキーは終わった。

めて持つストック。そのせいか、足も手も緊張でこちこちになっている。階段登行で一步一步慎重に登っているつもりだが、実際は全然進んでいない。それでも、いっしょうけんめいやつてどうにかたどり着いた。指導員の先生や、九班の人たちの見ている中で私は初めて滑べった。思つたより簡単でころばなかつたけど、なかなか止まらないのは困った。みんなもどんどん滑べつて中には転ぶ人もいたけど、笑つてごまかしている。私も楽しくてつい笑つてしまう。小雨が降つて曇つたあいにくの天気で、雪も少なかつたけど、私たちにとつて、天気などどうでもよかった。ただ滑れば、それで幸

わせないのだ。自分ではストックをこう動かして、スキーをこうやって、と思つても、いざやってみるとストックもスキーも全然うまく動かず、スキーとスキーを交差させて転んで起き上がれなくなつたり、ストックをスキーで踏んでるのを知らずにぐいぐいひっぱつてみんなに笑われたりで、最初は失敗ばかりしていた。でもどうにかこうにかよたよたしながらでも、うまく使えるようになった。次は少し高い所から滑べることになつた。私はたいしたことないと思つて登つていった。するとその時、「きゃあー、だれか止めてー」と、稚子さんが、後向きに滑べつていった。この次はこうやって滑べる

〔二月一日〕暖かすぎて天候が気になってしかたがない。夜半に目ざめて窓を開けるとやっぱり雨ノしかもさあざあと降っている。

はじまった心の交流

海と山の子交流実行委員長

金井英郎

雨の野沢

豪雪で知られる野沢なのに、スキー場の雨ほど興ざめなものはない。雨はスキーヤーを意気消沈させる。雨はスキー場の雪をぐさぐさに腐らせる。雨はリフトの



みんな熱心に講習をうけました

いすをビショビショにぬらす。雨はえり首から気持悪く流れこんでくる。そしていつの間にか肩やひざのあたりからじわじわと冷しくみこんでくる。

スキーというスポーツは割合と重装備だから、ひとたびぬれそぼってしまふと後がたいへんだ。身につけたさまざまな品物を乾かすのにひと苦労してしまふ。だからスキーヤーは雨をいちばんきらう。雪質が最低になり、自分はこんなに下手だったかどがっかりするの

もこんな日だ。ま、雪の状態が悪いのはしかたがない。せめて夜明けまでに雨が止むことを祈って目をつむる。

朝、雨は小やみになったが、依然として細かい糸が走っている。暖冬という言葉そのまま、モヤッと

思案一時間。予定通り講習開始指示。九時二十分開講式、日影スキーセンター前。講習に入るとも

気合いの入った講習

暖かく、とても雪に変わりそうもない。やれやれ初日からビショぬれのスキーか。しかしスキーをはじめては子どもたちのこと、今日講習をみっちりやらないと、明日の毛無山行きは取り止めねばならぬ。これは何としても残念な事。

うみんな雨のことなど忘れてしまっている。各班とも気合いが入っている。先生も生徒も夢中。熱気

雪上の交流会

は雨を吹きとばした。生徒のヤツケをさわって見ても誰もぬれていない。

天候は次第に回復、空が明るくなる。子どもたちの上達は早い。午後二時すぎには予想どおり初歩の回転―スキーをV字形に開きどうやら曲れるようになっていようやら山の上に連れて行けると判断する。

三時から向林ゲレンデで恒例の子どもの交流会。今年は今までで最高にムードが盛りあがっている。昨年夏、御宿海岸での出合い以来、文通で友情を温め合っているとのこと。その間にも野沢温泉中一年生のノルディック、アルペン、ジャンプなどの試技が披露される。何しろスキーにかけては天下の野沢、みごとなものである。

この日は一日中、NHKがテレビ取材。(翌日NHKこどもニュース全国ネットで放映された)



夜に入っても海と山の交流はつづく。子どもたちは野沢の人たちの作ってくれたカマクラで甘酒パ

ーティ。大人は両町村幹部の歓迎懇親会、酒をくみかわしての飲談に楽しい時が過ぎる。



野沢中のお友だちと楽しい交歓会

こけなし 小毛無に登る

〔二月二日〕夜半、窓を開けると

うつつらと雪をかむっている。昨夜とちがいキューンと冷えている。すでに雪は止んで空に雲は無いようだ。

さて、今度は別の新しい心配が心を過ぎる。凍結だ。昨日の雨でぐさぐさにとけた腐り雪が、凹凸のままガチーンと凍ってしまふと不整地アイスバーンとなる。これはもう初心者には手も足も出ない。生半可のスキー技術ではどうにもならないから、ひとりよがりのテングスキーヤーが自慢の鼻をへし折られてペンをかくのがこの状態の雪である。小毛無付近の凍結状態によっては山行きが無理になる。

朝、早々と連絡、山頂の凍結はひどくはなく、新雪をかぶっていて大丈夫とのこと。万才である。決行をさめる。十一リフト(二二九四メートル)十二リフト(六六一メートル)十六リフト(九四一メートル)とリフトを乗りつぎ、

標高一四〇〇メートルの小毛無に登る。

野沢温泉の部落から七〇メートルも高度をせりあげたことになり。このあたりはメルヘンの世界のように美しい。落葉樹の林は霧氷に輝き、遠い山波は白く、青く、紫色に重なり合っている。

来年までにここまで一気に登るゴンドラ、延長二四〇メートル作るとか。工費一ぼう大であろう。野沢温泉村の実力はたいしたものである。

シーハイル!

山頂は寒いので準備の出来た班から滑降に移る。このあたりは斜度がゆるいので、子どもたちは喜々として、するする滑っている。

夏の再会を約し、さよなら

バス出発は七時というのに、お別れ式会場のかしや駐車場は六時半にはもういっぱいの人…人…人。

野沢温泉村を代表するあらゆる顔がそろっている。野沢温泉中の生徒も今年も代表だけでなくたくさんきている。

大人も、子どもも、だき合い、手をにぎり、肩をたたきあい、夏の再会を約し合っている。

交流四年目。ようやく軌道に乗ったと思う。形ではなく、魂が入ってきた。

心の交流がはじまった。

最後尾には頼もしい重戦車のような雪上車が二台、ひとりの落伍者も見逃すまじとゆっくり進んでいる。万全の体制である。天候はまったく回復し真青な空。すばらしいスキー日和となる。シーハイル!

湯の峯荘ロッジで昼食、各班ごとにより影まで滑降、全長一〇キロ、メートルの豪華な特設コース。三時半、向林ケンちゃん食堂前でスキーを脱ぐ。先生たちとはここでお別れ。みんなそろって「ありがとうございました。」



野沢の誰もがみんなそのことを知っている。

小毛無から一〇キロのスキー大滑降、そしてこの心の交流。

子どもたちにとって、これは鮮烈な思い出であろう。子どもたちの胸のおくどにがっかりと焼きついて、もう一生消えはしないだろう。

町内43か所に消火せん



消火せんのそばにあるホース格納箱

消防車来るまで消火せんで

町民のみなさんは、すでにご存知の方も多いと思いますが、町で

は火災にそなえ、住宅密集地四十
三か所に消火せんを設置しました。
いっおこるかわからない火災に
備え、近所にある消火せんの設置
ヶ所と使い方を覚えましょう。

たと大ケガのもとになりま
すと。
④開閉棒で消火せんをゆつくり
ひらく(厳守)
火災現場に放水、消火をす
る。消火せんを締める場合も
ゆつくり締めるようにする。

◎取扱い方法

①火災現場近

くの消火せんとホース格納箱(赤い箱)を確認する。(消火せんと空気がありますので、

②消火せんのふたをあけ、開閉棒をとりつける。

ましがえないようにしましよ
う。

③ホースと筒先をとりつけて、消火体制をとる。

この時、とても高い水圧ですので二人以上でもつようにし、またホースのとおりつけ口を確認します。(確認をおこ

①ホース三本(一本二〇m)

②消火せんのふた開閉棒

③消火せん開閉棒

④ホースの筒先



番号	所在地氏名	部落	分団
1	みわ温泉	浜	4
2	式田みつ	浜	4
3	大谷福藏	浜	4
4	米本良司海岸店	浜	4
5	春日荘前海岸案内所	浜	4
6	はまや商店	浜	4
7	渡辺丈太郎	須賀	4
8	鶴岡実	須賀	4
9	伊藤治助	須賀	4
10	本吉勇	須賀	4
11	佐伯進	須賀	4
12	渡辺みち	須賀	4
13	須賀三ツ角	須賀	4
14	滝口清次郎	須賀	4
15	日高五郎	須賀	4
16	中央海岸駐車場料金所	須賀	4
17	君塚磐雄	久保	1
18	大地亘	久保	1
19	井上千之	久保	1
20	天津英男	久保	1
21	白鳥由造	久保	1
22	御宿中踏切寄道路	久保	1
23	秋葉賢	新町	2
24	滝口松藏	新町	2
25	伊藤勘助	新町	2
26	鈴木二一	新町	2
27	大竹恒彦	新町	2
28	天の守・熊谷喜六	新町	2
29	鶴岡喜一	新町	2
30	松下弘秀	新町	2
31	高木すえ	六軒町	3
32	鷹中丈	六軒町	3
33	長田金雄	六軒町	3
34	立石明男	六軒町	3
35	柳健吉(補正堂)	六軒町	3
36	小川征	岩和田	7
37	大野元芳	岩和田	7
38	水野八郎	岩和田	7
39	水上定雄	岩和田	7
40	氏原忠	岩和田	7
41	金井英一郎(メキシコホテル)	岩和田	7
42	木原五郎	岩和田	7
43	江沢政雄	岩和田	7



美しいお花畑のような成人式の会場

二十歳を迎えて、私はいま改めて成人として、これから私に課される責任の重さを感じています。同様に私という個人が今までとは違う、一人の成人として、社会に認められたということに、非常の喜びと感動で私の胸いっぱい燃えています。数多くのメニュー表を開いていま検討、奮闘中です。私が本当にすべてをかける自分の道を探して、正直なところ私はまだ、自分の道を見つけていません。こうして自分自身の手で、自分自身の考えで歩むべき特権をいただけるながら、今だに心は定まらないのです。

自分に甘えたくない

白井 康子

すべてにおいて常に全力投球でいたい、自分に甘えたくない、だからほんとうに私自身、全部でぶつかるものを見つけたたいのです。今の私の生活といえは仕事において、私生活においても、すべて与えられたものななかで、なんの自主性もなく、ただ無意識に人形のように動くだけ、仕事もただ機械的で自分の感情などとは関係なく必要限度の頭を使い、体を使い、感動もなんの喜びもない毎日、他の見方をすれば、平穏で安定した生活だといえるかもしれせん。けれども、本当の意味での生きる喜びを感じる事が、できません。どうでしょう。

今年の成人式

カラオケ大会 などで楽しく

今年は 136名の方が社会人の仲間入をしました。成人式も今年から趣向をこらし当世はやりの「カラオケ大会」などがとびだすなど、若者たちらしい、楽しいふんいきの成人式でした。



そして私は今までもう半分、息切れしている時間のなかに、とっぷりとつかってなんの感情もなくすごしてきてしまいました。でも今日からは違います。

いま、こうしている時間も私のためだけの、一度しかない、もう絶対にやりなおすことのできない人生なんです。生活を与えられたものから、自分のものとして、積極的に生きてみたい。

そうして前向きの姿勢で、取組むことによって、今まで、ぼんやりとしか見えなかったものがはっきりと見え、それがやがては、私の生きるすべてを支えとなる人生の道しるべとなつて、私がこれから歩むべく明日を、見せてくれるのではないかと思います。

二十歳という年齢を迎えることによって、国の政治に最も身近に

参加できる選挙権をいただき、ほんとうに小さな力だけれど、国の

歩みに、動きに、自分の力を役立てることが出来る。これはやはり、



まず行動する人間に

井桁 三之

成人の日を迎え、今まで自分が行ってきた行動を、思い浮かべます。いろいろな考えさせられます。

学校を卒業するときには「今まで

学んできたことを社会で大いに生かそう」と自分にいきかせてきたのが、クラブ活動で鍛えた体だけが役にたったとは予想もしていません。

学生時代とだいぶ違いました。

つまり頭をつかうだけでなく、まず第一に体を動かさなければなら

私は現在家業を見習っています。毎日、大勢の人たちといろいろな現場で日々新しい仕事をしていきます。

体験していくうちに頭で考えることはもちろん、必要以上に体を動かさなければ、仕事の工期はよくしやなく迫ってくる。ともかく行動を起こして形を造っていかなくては経営が成り立たないということ、まして人を使うことはできません。

そこで私はまず仕事をして仕事

重大な責任を背おうことになりま

す。その責任を背おいながら、自分の力を発揮し、なおかつ自分の道を見失わず、しっかりと自分の道を見極めて努力する。むずかしいことだけれども、生きてゆくことは、こんなことではないかと思

います。私もまだまだ弱輩者で、まちがったり、つまづいたりすると思います。どうぞその時は適切なアドバイスをよろしくお願い致します。

のなかで考え新しいことに習熟して一人前の職業人になってゆくことが、一番遠いようで近い道であるように思います。

学生の時鍛えた体で、人生の長い旅をきり開いていく覚悟です。とかく自分の体を動かすことを苦にして、安易な生活を求めがちな現代の風潮のなかで私たち若者はまず行動する人間になることが肝要と考えます。その地道な積み重ねが、自分の持場を責任をもつて固めることそれが社会に貢献することであるということを信じて今後一層仕事に励んでいきます。よろしくご指導をお願いします。

自衛隊員の手で 整地に着手 町営グラウンド



のとのつた運動場がないため、町民はもちろん各種団体からその早期新設が強く要望されています。

これに答え、町民の体力増進、新旧住民の親睦交流、青少年の健全育成などに寄与することを目的として野球場、テニスコートなどをそなえた運動場新設のはこびとなりました。

このグラウンドは、五十四年度事業として完成する予定です。

町営グラウンドの起工式を一月二十四日行いました。当日グラウンド予定地(久保矢田団地地先)では、整地を行う自衛隊員、議員区長など約七十名が集まり工事の安全を祈願しました。

今まで一般町民が利用する施設

種別	面積(m ²)	摘要
野球場	14,532	レフト90, ライト90, センター120
テニスコート	2,640	コート 3面 フェンス付
新設道路	2,700	6m×450
駐車場の他	2,080	2ヶ所 47台収容
その他	4,600	緑地 道路 花だん 芝生
計	26,552	

黄金の鳥

網代実

夜が白々と明けてくると同時に風も幾らか風いでいた。

六助を先頭に村の老若男女があるだけの衣類を抱えて浜に着いた時には、ほとんどの遭難者が救助されていた。

早速、衣類が遭難者に支給されたが、大男達は、その着方がわからないらしく戸惑っていた。それを見ていたお熊婆さんが大声で叫んだ。

「女でもさ、こいつら着方も知らねえようじゃ、着せてやんな、大人の癖しやがってだらしがねえつたらありやしねえ」まだ何か言いたそうにながら、男から着物を引取ると着せかけてやっていった。

着物は、いずれも古びたものばかりであちこちに継ぎがあたっていた。

夜が明けるに従って、この浦だ

けでなく隣りの小納戸や二俣、そして小浦や大浦にも漂着した人達がいることが知らされた。

大多喜屋善右衛門は、とりあえず村の守護神社である大宮神社に遭難者を集めるように、六助に言いつけて、もう一人の手代の松造には、領主である本多忠朝にこのことを告げるべく、二人の若者をつけて大多喜城へ向わせた。

すっかり明かくなつた海上には、二本のマストをつけたサンフランシスコ号の船体が、左に大きく傾いて波に洗われていた。

それから数時間後の大宮神社の境内に、救助された三百十七人の男達が筵の上に窮屈そうに座っていた。どの顔も安堵と不安の入りまじつた複雑な顔であった。

そこへ手代の六助が戻つて来て主人の善右衛門にペコンと一つ御辞儀をするとかすれた声で報告し

た。

「旦那様、溺れ死んだ者が五十名程おります。」

「そつたつたか、ひとまず大福寺にあずけよう。」

六助は、心得顔で一礼して消えていった。杉木立ちを通して零れ陽が、男達の継ぎのあつた単衣の背中に落ちていた。

天下分目といわれた関ヶ原の合戦が終り、徳川家康は慶長八年（一六〇二年）二月十二日、征夷大將軍として幕府政治の第一歩を踏み出した。

しかし、二年後の慶長十年四月十六日には、將軍職を秀忠に譲り十二年七月三日には、江戸にいては將軍秀忠の力が出しきれぬと言って、駿府十二万石としてさっさと隠居してしまつていた。

家康が駿府に隠居してから更に二年の歳月が流れる。

慶長十四年十月一日、台風一過の清々しい朝が、ここ上総の国は大多喜城の中にも明けていた。

城主本多出雲守忠朝は、徳川家康が腹心、本多中務大輔忠勝の次子で当年二十八才、勝気で向うみずなところは、父忠勝の若い頃に

よく似ていた。

父の忠勝が関ヶ原の功を以て、慶長六年二月、伊勢桑名十二万石に封ぜられ、十九才の若さで父に従い功を成した忠朝が、今迄父の所領であつた上総大多喜の領主となつている。

忠朝が大多喜城主になるについては、初め父忠勝の功が大なる故、上総大多喜十萬石にあつて、家康五萬石の地を加えようとしたところ、忠朝がこれを固辞した為に忠勝を桑名十二萬石に移し、その故地大多喜五萬石を更に忠勝次子、出雲守忠朝に与えたといわれている。

忠朝が岩和田村の難破船事件を知つたのは、小姓一人を供に毎朝日課としている弓を射ち終つた時であつた。

城内でもこの的場は一段と高い丘の上にあつて、城下を遙かに見下すことができる。

忠朝は、日課の五十射を射終つて諸肌ぬいで小姓の平野正成に汗を拭かせながら、眼下の城下のあちこちに紫色に立ちのぼる炊きの煙をじつと見つめていた。

「正成、あの煙を何と思うぞ」「はっ、あの煙でございますか」



正成は、拭う手を休めずに少し戸
惑い顔で答えた。

「正成には、親子そろつての朝餉
の膳が見えまする」

「正成には、朝餉の膳に見えるか、
よいよい……稲を早く刈込んでお
いてよかつたの」

終りの方は独ごとのように呟き
ながら正成の着せかける帷子に毎
日の鍛錬で隆々とした腕を通して
いった。

「殿ツ・殿ツ」

坂の下から家老の大久保源左衛
門の声が近づいてきた。

「殿、大多喜屋の使いの者が参っ

てござりまする」

曲った腰を這わせるように登つ
て来た源左衛門が肩で息をしながら
片膝ついて言った。

「ほう、大多喜屋がのう、して源
左をそのように慌てさせる用向き
はなんじゃ」

忠朝は、青空の下に一筋銀色に
輝きながら流れる夷隅川を眩しそ
うに小手をかざして眺めながら言
った。

「はい、今朝未明、岩和田村に難
破船が漂着しまして見たこともな
いような大男達が、村人達に助け
られたよじにござりまする」

「なんと見たこともない大男と
な」 漸やく忠朝は、視線を源左
衛門に向けた。

「はい、松造とやら申す使いの者
の申しますには、何やら聞き覚え
のない言葉を喋るような」

「おお、それは異国人であるつ
」

「さように存じまする」
「三百余人か申してござります
る」

「ほう、大層な人数じゃな、源
左、大多喜屋に手厚く保護を致す
ようになしかと申し付けら」

「はい、さよう申し伝えまする」

「源左ッ」

「はッ」

「江戸表にも知らせねばなるまい
の」

「これだけの人数でもござります
れば、ましてや異国との交流は御
法度でござりまする故、詳しく見
分の上御報告申し上げるのがよろ
しいかと存じまする」

「そう言い残して源左衛門は坂の
下へ消えて行った。」

忠朝は、異国人が三百余人も漂
着したという岩和田村を思い遣つ
た。

彼が大多喜城主となった夏のこ
と、領内を歩いたことがあった。

南に大きく口を開けた網代の海
が鏡のように静かに風いで、最明
寺から見わたす景色は、今でも彼
の心にくっきりと焼きついている。
その昔、この最明寺に諸国巡遊の
途にあった北条時頼が一宿し

御宿せしその時よりと人問は、

あじろの海と夕影の松
という歌をのこしたことから、こ
の部落を御宿郷と呼ぶようになった
たとか、岩和田村は、その御宿郷
の東端にある。

戸数は百戸に満たない半農半漁
の小さな村に、三百余人の男達を

抱えた大多喜屋の顔が改めて忠朝
の心を動かした。

「大多喜屋も大儀なごよもの」
忠朝は独ごちながら歩き出した。

松造が岩和田村に帰り着く頃
は、三百七十七人の男達が村人達の
家々に分宿する事になって三人、
四人と連れだつて案内されて行く
ところであった。

「旦那様、松造只今戻りました」
「おお御苦労じゃつた、本多のお
殿様は何と言われたのじゃ」

善右衛門の顔は、聞かすともわ
かつているというように眼を細め
ながら、それでも殿様の考えと、自
分の処置の正しさを一致させよう
として松造の報告を待っていた。

「はい、手厚く保護を致すように
とのごとでござります。それから
明朝、目付頭神原主膳様とお役人
衆が見分にみえられるとのことで
ござりました。」

「よしわかつた。六助の方を手伝
つてやつてくれ」

「はい、旦那様」
釣瓶落しの秋の陽は、既に西山
に隠れようとしていた。



駅伝大会のスタートと町の出場選手

新藤、木原選手が区間賞 夷隅一周駅伝大会ひらく

二月十一日、今年で四年目をむかえた夷隅一周駅伝大会。マラソンプームにのって、今までにない盛りあがりを見せました。一般五チーム、高校二チーム、中学校八チーム、計十五チームにより御宿、大多喜間(三十二・二キロメートル)の道のりを、競いあいました。御宿から、一般、中学校の二チームが参加しました。惜しくも入賞できなかったが、一般の部九区で(役場職員)新藤研・木原政吉さんの二人が、三千二百メートルを一分〇四秒の好タイムで区間賞をとりました。

寄 贈

久保老人クラブから保育園へ雑布百一枚寄贈。
上布施長寿クラブから雑布八十八枚寄贈。

俳句教室



おんじゆく伊壇

伊藤たけ志
柘植垣をまたぎ渚に出て小春
河崎 康代
水音の田道伝ひし芹匂ふ
石井 江津
驚は舞ふ冬耕なせる田の上を
佐藤 笑人
競い独楽大きく廻り負けにけり

市原 さき
初空の青にはりつく風一点
吉岡みのる
どんと焚く灰をかき入れ紙袋
星野 倭子
アメ玉を出して小走り初電話
今井 アキ
冬日射す祠のならばこの岬
石井 たま
古い母の七草かるの由来など
斉藤 月子
水餅を早目につくりあたたかし
伊藤十九二
追羽根の子ら口々に数え歌



◇……おめでた……◇

一月届け出 男10 女3 計13
区名 出生児 性別 保護者
須賀 齊藤 洋明 男 信昭

発行・千葉県御宿町

発行責任者・岩井 敏夫

編集者・氏原 憲二

河崎千鶴子
笹鳴きのつまづく声に歩をとどめ
伊藤 三登
冬ぬくし歌も出でたる厨かな
土井 久恵
龍の玉ころげ来にけり庭を掃く

曾根 黙歩
寒肥か一握りづ、に陽をふくめ
岩瀬 京子
雲の影ゆつくりよぎる干布団
石田ゆき緒
船釘の残りて浜の焚火あつと

浜 鶴岡 稔 男 武志
高山田渡辺 誠 男 登
久保 岩瀬美由紀 女 由紀夫
新町 竹原 寛 男 正
六軒町岩本ひとみ 女 茂
岩和田倉瀬 健一 男 敏夫
岩崎 佳久 男 亮一

人口		(1月末現在)	
	前月比		
男	3,917	9	
女	4,497	2	
計	8,404	4	
世帯数	2,344	△1	

区名	死亡者	年齢死亡日	一月届け出	男	女	計
須賀	渡辺 なつ	90	1月10日			
〃	佐藤 魚以	75	1月10日			
浜	渡辺 三次郎	82	1月18日			
〃	鶴岡 きぬ	53	1月12日			
久保	岡田 正久	60	1月2日			
〃	長島勝太郎	69	1月19日			
六軒町	立石 ヤエ	59	1月11日			
岩和田	石田市次郎	85	1月1日			
〃	田村 く免	83	12月31日			
〃	市東 よし	70	1月11日			
〃	渡辺 寅次	54	1月17日			
〃	市東 タキ	87	1月21日			